

# 桐鈴凜々

## お墓の意味を問い直したい

桐鈴会理事長 黒岩 秩子



第78号

平成23年7月15日発行

発行責任者

社会福祉法人 桐鈴会

理事長 黒岩 秩子

南魚沼市浦佐 5142-1

電話 025-780-4118

FAX 025-777-3731

e-mail

suzukake@rose.ocn.ne.jp

http://www17.ocn.ne.jp

~/tourei/

「障がいを持つ人たちが暮らしやすい地域を」ということで活動してきた「ともに育つ会」が母体となって、桐鈴会という社会福祉法人ができて十二年になります。この地域に足りないものは、ケアハウスのみと県にいわれてとりあえず建てたケアハウスでしたが、その後ヘルパーアシション、グループホームと作ってきて、ずいぶん色々勉強させていただきました。人生の最後というのは、なにかの障がいを持つようになるということが、あたりまえのこと

ととして共有できるようにになりました。

桐鈴会の評議員で、重度の障がい者子どもさんに持つ方からの要請で、障がい者関係の建物を建てることになり、この四月にグループホーム「ひまわり」が誕生しました。鈴懸隣の畑三百六十坪を購入し、宅地転用も終えることができました。ここに日中活動の場とケアホームを早く作りたいと思います。ただ、東日本震災の影響で、助成金がいただけるかどうか、少々心配になってきています。

## 納骨堂の顛末

社会福祉法人桐鈴会として、入居者の納骨堂を作るということに取り掛かって何年か経ちました。二坪ほどの六角形の設計図を石田工務店からいただいたのは去年の春でした。

その後突然、市役所の環境課長が来られて、「県からそういうものは作れないと言われた」と通告があり、それから様々な取り組みを開始しました。市長にお願いに行き、近所からの同意が必要と言われ、早速近所回り、JAを含む十軒から同意書をいただくことができたので、市役所に届けに行きました。「近所というのは、家だけではなく、周りの地権者も含む」と言われ、隣にある四枚の田んぼは二軒の地主さんのものでした。一枚の持ち主からは、すぐに同意が得られましたが、残り三枚の持ち主からは、同意できないといわれてしまいました。

しばらく時を置いた三月半ばに理事二人と三人でお願いに上がりました。反対の理由はいろいろなのですが、広田セツ子施設長は、「いま世の中の情勢

として、先祖代々の墓、という血縁で守られていた概念が崩れつつある」と訴え、私は、「鈴懸という新しい家族と死後の世界で同居するという新しい発想にご理解を」と訴えたのですが、「土地というものは代々続くもの、自分は受け継いできたものを子の代孫の代へ受け継ぐところにいるだけ、自分で勝手に決められない」ということで物別れ。

それからいろいろなアイデアを考えて取り組んでみたのですが、南魚沼市長さんからは、近所の同意が得られなくては無理、とのこと。一年前は「作れない」というところから、市長さんが何とか作れる方向で考えてみよう、次のような提案をしてくださったのです。「社会福祉法人よりは、永続性という点で、信頼されている南魚沼市が、その納骨堂の敷地を所有する」という形で、許可をする。それをいただいたのが、去年の十二月。地主さんとの交渉では、そのことも話したのですが、心を動かすには至りませんでした。最後にもうひと押ししてみ

ようと五月に入ってから、桐鈴会専属の僧侶榎本宗俊さん（精神障がい当事者として、この三月から評議員）と二人で地主さんを訪ねました。榎本さんが言っています。「葬式仏教だと揶揄されていますが、せめて死んだあとは大事にしようという精神で、大切にお祈りさせていただいている。私は、精神障がい者になって親戚からはほとんど無視されているので、死んだら、無縁仏になるしかないのですが、いま実は、そういう人が多くて、私の住んでいる魚沼市福山という部落では、お墓ではなく、部落の共同墓地に祭ることになっています」。地主さんは、「そういうのがちゃんと制度化されるのが、理想だと思います」というのですが、今はそうでないのハンコは押せない、ということとで諦めるしかなくなってしまうのでした。

なにしろこの問題は、子どもさんのない夫婦での入居者からの要望で始まったこと。このご夫妻に何といったらいいのか、これが一番の問題でした。「お骨は、永代供養をしていただけ

るお寺に預けて、鈴懸の中にお参りができる場所を作って、皆で弔うことにしよう」ということに、役員会でも職員会議でもさらには当事者のご夫妻にもご了解をいただくことができました。その場所としては、夢草堂の阿弥陀様の隣あたりにしよう」と話し合われています。



### 「じよんのび屋食会」

桐の花 大塚 悦子

桐の花のお庭は、鈴懸の吉田さんの手入れで、毎シーズンいろいろなお花が楽しめます。

半年も雪の中になると、息が詰まります。春以降は、私たちもお庭に出るのをとても楽しみにしています。特に、職員さん

がお昼を作ってくれ、全員で家庭の昼食会をしてくださるのが、また何とも言えない楽しみになっています。八色の森公園や、遠くに見える八海さんを眺めながらの昼食は、格別のおいしさがありますね！心までのびのびできますよ、本当！雨の日は残念ですね。

職員さんは大変でしょうが、とても楽しみにしていますので、よろしくお願いしますね！（聞き取り）



人の御飯が気になります。



のどかな昼食会。

本日の昼食メニューは・・・

# 【平成22年度財務状況報告】

社会福祉法人桐鈴会

## 資金収支計算書 (単位千円) (平成23年3月31日現在)

		勘定科目	
経常活動による収支	収入	介護保険収入	103,121
		自立支援費等収入	2,652
		利用料収入	75
		事業収入	2,063
		経常経費補助金収入	31,202
		寄附金収入	8,963
		雑収入	1,725
	支出	受取利息配当金収入	17
		会計単位間繰入金収入	0
		経理区分間繰入金収入	20,500
		経常収入計	170,318
		人件費支出	79,928
		事務費支出	16,048
		事業費支出	23,942
施設整備	借入金利息支出	507	
	会計単位間繰入金支出	0	
	経理区分間繰入金支出	20,500	
	経常支出計	140,925	
	経常活動資金収支差額	29,393	
	固定資産売却収入	100	
	固定資産取得支出	7,906	
財務活動	施設整備等資金収支差額	-7,806	
	借入金収入	6,000	
	その他の収入	0	
	財務収入計	6,000	
	借入金元金償還金支出	3,672	
	その他の支出	0	
	財務支出計	3,672	
財務活動資金収支差額	2,328		
当期資金収支差額合計	23,915		
前期末支払資金残高	51,254		
当期末支払資金残高	75,169		

## 事業活動収支計算書 (単位千円) (平成23年3月31日現在)

		勘定科目	
事業活動収支の部	収入	介護保険収入	103,121
		自立支援費等収入	2,652
		利用料収入	75
		事業収入	2,063
		経常経費補助金収入	31,202
		寄附金収入	8,963
		雑収入	1,725
	支出	国庫補助金等特別積立金取崩額	10,429
		事業活動収入計	160,230
		人件費支出	79,927
		事務費支出	16,048
		事業費支出	23,942
		減価償却費	20,335
		事業活動支出計	140,253
事業活動収支差額	19,977		
事業活動外収支の部	受取利息配当金収入	17	
	会計単位間繰入金収入	0	
	経理区分間繰入金収入	20,500	
	事業活動外収入計	20,517	
	借入金利息支出	507	
	会計単位間繰入金支出	0	
	経理区分間繰入金支出	20,500	
事業活動外支出計	21,007		
事業活動外収支差額	-490		
経常収支差額	19,487		
特別収支	収入	固定資産売却益	100
	支出	国庫補助金等特別積立金積立額	0
	特別収支差額	100	
	当期活動収支差額	19,587	
	繰越活動収支差額	前期繰越活動収支差額	87,325
	当期繰越活動収支差額	106,912	
	その他の積立金取崩額		
次期繰越活動収支差額	106,912		

二十二年決算書類の詳細はケアハウス鈴懸・事務所に常備してあります

## 貸借対照表 (平成23年3月31日現在)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	83,199,178	63,039,198	20,159,980	流動負債	8,030,113	11,785,430	-3,755,317
現金預金	61,878,145	42,349,359	19,528,786	未払金	1,979,113	5,142,930	-3,163,817
未収金	21,294,263	20,659,359	634,904	預り金	6,051,000	6,642,500	-591,500
貯蔵品	26,770	30,480	-3,710	固定負債	56,368,000	54,040,000	2,328,000
固定資産	376,473,602	388,903,121	-12,429,519	設備資金借入金	33,368,000	31,040,000	2,328,000
基本財産	336,759,145	354,529,947	-17,770,802	長期運営資金借入金	23,000,000	23,000,000	0
建物	207,186,584	216,006,077	-8,819,493	負債の部合計	64,398,113	65,825,430	-1,427,317
建物付属設備	53,562,561	62,513,870	-8,951,309	純資産の部			
土地	76,010,000	76,010,000	0	基本金	123,319,500	123,319,500	0
その他固定資産	39,714,457	34,373,174	5,341,283	基本金	123,319,500	123,319,500	0
建物付属設備	501,550	0	501,550	国庫補助金等特別積立金	144,543,381	154,972,435	-10,429,054
構築物	5,827,066	7,187,707	-1,360,641	その他の積立金	20,500,000	20,500,000	0
車両運搬具	2,537,823	3,418,189	-880,366	人件費積立金	2,000,000	2,000,000	0
器具及び備品	3,209,878	3,150,638	59,240	修繕積立金	18,500,000	18,500,000	0
建設仮勘定	7,021,500	0	7,021,500	管理費収入積立金	0	0	0
権利	93,500	93,500	0	次期繰越活動収支差額	106,911,786	87,324,954	19,586,832
人件費積立預金	2,000,000	2,000,000	0	次期繰越活動収支差額	106,911,786	87,324,954	19,586,832
修繕積立預金	18,500,000	18,500,000	0	(うち当期活動収支差額)	19,586,832	9,011,646	10,575,186
その他の固定資産	23,140	23,140	0	純資産の部合計	395,274,667	386,116,889	9,157,778
資産の部合計	459,672,780	451,942,319	7,730,461	負債及び純資産の部合計	459,672,780	451,942,319	7,730,461

(脚注) 1. 減価償却累計額

基本財産 182,699,343 円  
 その他固定資産 38,713,533 円





四月にオープンして三ヶ月が過ぎました。オープン当初二人だった入居者さんも、五月に一人加わり三人になりました。

一番に越してきた、物知り博士の中澤勇士夫(ゆしお)さん。

気が付く事も一番で、休日には台所の換気扇掃除や入居者三人で分担してやっている掃除箇所の表作りなど、率先してやってくれます。ゴミの分別なども明確で、世話人の私は中澤さんに教えてもらいます。

最年長の安部(あんべ)利一さんは、穏やかなひょうきん者。東京、新小岩近くの会社に永年勤めてこられた方です。

「ひまわり」の床の間には安部さん永年勤続表彰状が金縁の額に入れて飾ってあります。偶然にも安部さんと私は同じ東京で、それぞれ生活していました。あの頃の新宿駅西口地下の反戦集会や東大紛争も私たちには全く関係なかったね、安部さん！

## グループホーム 「ひまわり」開設 その2



五月の末に十日町から越してきた庭野正夫さん。ここでの生活も一ヶ月過ぎました。口数が少なく大人しい方ですが、ゆっくり会話すると、しつかり話す人です。「ひまわり」に来てからお風呂に入る事が好きになり、「ごちそう(?)が食べられて



庭野さんの歓迎会にて。前列左から中澤さん、庭野さん、安部さん。後列は世話人の金子さん、羽吹さん、星野さんと黒岩夫妻。

帰宅します。

土日の休日は、ゆっくりと寝て曜日の人、桐の花にボランティアに行く人、と皆さんそれぞれ自由に過ごします。

世話人は毎日交代で朝六時半から九時半、夕方四時半から夜九時半まで勤めます。朝食も夕食も入居者さんと一緒にいただきます。その時に、服薬の確認、健康状態、身仕度の様子などを見まします。

世話人は一人で仕事をします。必ず翌日の人にメモを残します。一番若くてチョットきびしい星野真由美さん。細かに書いてくれてとても助かります。二番目に若い金子清美さんは控えめでしつかりした方です。和やかな雰囲気にしてくれます。

これも偶然ですが、世話人三人とも名前の末尾が「美」なんです。別に意味はありませんが：：何かご縁を感じます。

入居者さんは、二、三日に一回、自分の洗濯をし、一週間に一回の居室の掃除、それに三人

で分担してやっている風呂・トイレ(一階と二階)・廊下の掃除も習慣になりつつあります。世話人も、持病のある人のために大まかですが、カロリー計算をして昼食用の弁当作り(二人分)をしています。皆、かなりチョット頑張っています。

願わくば、まだ空いている三つの部屋に入る、新しいお仲間が来てくれます様に：：。(グループホームひまわり) 世話人 羽吹 和美)



こんにちは。私は石打出身の  
中澤勇士夫  
(ゆしお)五十六歳です。

趣味はジャズと七十年代、八十年代のロックを聞くことです。あとはデジカメで風景写真を撮ることです。

私が初めて「ひまわり」を見に来たのは三月の初めの頃で、雪も一メートルくらいありました。「ひまわり」の中を見学して少し不安に思いましたが、完成

して見たら、不安もなくなりました。

四月十八日に友達の軽トラックで荷物を運んでもらって、一安心しました。その日の夕食からお世話になっていきます。

「ひまわり」での生活は快適で初めは安部（あんべ）さんとの二人でスタートをしました。管理人（サービスマン）の星野さんには、身の回りから色々面倒をみてもらい心から感謝しています。世話人さんも三人居て安心ですし、ごはんも美味です。

今は「魚野の家」へ通って三年目です。「魚野の家」も浦佐に十一月から新しく開設します。私は浦佐の「魚野の家」へ通いたい気持ちです。

**注、「魚野の家」は、社会福祉法人南魚沼福祉会が運営する指定障害福祉サービスマン事業所で、六日町にあります。この3月に認定子ども園ができたために閉鎖となった浦佐保育所を改築して、この秋から「魚野の家」の支所がその中にできます。「ひまわり」から歩いて5分の距離です。**

### 小俣當枝（まさえ）さん とのお別れ



五月三十一日の朝六時ころ小俣さんは亡くなりました。仲のよかった入居者の村山さんがいつもそばにいてくれました。ちょうどその時間に黒岩先生が様子をみにこられた時、まだ指先も温かかったということでした。六月一日、親族、入居者、職員、役員五十人が集まり、村山さんからの弔辞もいただいて、ささやかなお別れ会のあと、小俣さんは夢草堂から旅立たれました。「夢草庵純真当春大姉」主治医であり、(最近)戒名作家の黒岩先生から送られた小俣さんの戒名です。



右が小俣さん。昨年の夏祭りでの一コマ。隣が村山ヨシエさん。



小俣當枝さんは平成二十一年の夏にショートステイルームをご利用になりました。当時九十四才の小俣さんは息子さんと二人暮らしだったので、その息子さんがかんで入院することになったため、小俣さんは鈴懸のショートステイルームで息子さんの退院を待つことになりました。息子さんの入院先が鈴懸の近くだったので、息子さんは入院のたびに立ち寄り、小俣さんのために細々とした買い物をお届けしてくれました。その折には鈴懸のお風呂に入り、小俣さんの部屋でよくお昼寝をされていたものでした。しかし、二十二年六月に息子さんは亡くなられ、小俣さんは大切なご長男を見送られたのでした。その後ご縁があり、今年の一月に小俣さんは鈴懸に入居されました。小俣さん自身にもがながみつかって二年以上経っていました。お元気でしたので、私たちはそれを忘れていたぐらいです。

小俣さんは亡くなる十日ほど前に体調を崩されました。ベッドから起きられなくなった初めのころは「いいところに入れたから、あと二年ぐらいは生きていたい」とおっしゃっていました。でも覚悟ができておられたのか、亡くなる四、五日前に私に「鈴懸で、このまま、おしまになるのはだめかい。病院に送らないでくれ」とおっしゃいました。「黒岩先生が病院に送ったりはなさらないから大丈夫ですよ」というと、「黒岩先生、黒岩先生」と主治医の黒岩先生の名前を呼び、手を合わせておられました。また、ヘルパーが体を清拭すると、「きもちがいよいよ。まるで天国にいるみたいだ」と言われるので、「ヘルパーが「まだ天国ではないですよ」というと、あー、あーと返事があり、そこに居合わせた者たちは皆、なごやかな気持ちになりました。

小俣さん、息子さんにはもう会えましたか。「親より先に死んだりして、困るじゃないか」と息子さんのこと叱ったりしないで、仲良くやってくださいね。

ケアハウス鈴懸 広田セツ子



前号から始まった、「ちづ子の部屋」今回は毎日心を込めて料理を作ってくださいている、厨房のメンメンを尋ねました。

他のケアハウスから鈴懸に移ってこられた方が、一様におっしゃるのは、「食事がおいしい」ということです。いったいそれはなぜなのか、厨房のリーダー片桐康雄（三十八歳）に聞きました。

片桐は、まず、私を厨房に呼び込んで、壁に貼ってある表を見せました。それは、食べられない食事の一覧でした。嫌いで、または、薬との相性で、料理メ

ニューの下に名札が貼ってあるのです。よく見ると、一番たくさんの方が食べられないのは、「レバナラ」、次が「納豆」。レバナラが食べられない人には、魚料理とかを出すといえます。納豆は、薬との関係らしいのですが、煮豆とか、豆腐などを代わりにするとのこと。

ひと月二回のセレクトメニューというのを知っていたのですが、日常的に食べられない物とときに、それに代わるものを出しているとは！

セレクトメニューは、以前は月一回だったのに、人気があるので、月二回にしたそうです。いつも献立をたてている片桐以外のメンバー四人にメインディッシュを二つ考えてもらっているとのこと。事前にどちらにするかを申し出てもらって、その数で作るのだそうです。

刻み食があったり、お粥があったり、ご飯も柔らかいのと、こわいのと毎日出ます。鍋ものも、冬の間は、テーブルに大きなべを一つ置いて、みなでつつきます。「おにぎりが食べたい」という

入居者の声から、お弁当の日が設けられました。仕出し屋さんのお弁当入れを買いそろえて、おにぎりのほかにおかずが数種類。これは、月一で、人気があります。これを部屋に持って行って食べる人、隣にある「八色の森」公園に持って行って食べる人など様々。最近では、「豪華弁当」が年に四回つくことになりました。春だったらタケノコご飯に豪華なおかずが付きます。これをもって花見に行ったりします。「豪華弁当」は、入れものからして「豪華」です。

厨房は、片桐と八木が、男性で正職員。三人の女性はパートで、五十代の南雲、六十代の岡村、羽賀。この三人の方々は、ゼンマイ煮物など郷土料理が得意。

私「ケアマネの資格を取ったんだって？」

片「栄養士を五年やると受験資格ができるんです。簡単に取れるってみなさんを励まし

たいから取ってみただけで。」とのこと。実際彼は、一回目で合格してしまったのです。もう一人の八木は、ヘルパー二級、そして介護福祉士も取ってしまいました。私「どうして取ろうと思ったの？」

八「早いころは、ぼくたちも泊まりをしていたんです。だから、介護のことを勉強しようと思って」

この熱意ある三十代の男性たち二人が、入居者の皆さんの様々な要求を何とかしてかなえたいというけん引力となつて、甘すぎる、しょっぱすぎる、のコメントに対応してきたのですね。





## タイダさん作品展

六月十一日～十九日

於 夢草堂



「蓮の花の版画だけなのよ」と理事長。蓮は好きな花の一つだ。水面にピンクの大きな花びらを浮かべている姿はとても優美だ。絵を描くことが好きで、いつかは蓮の花も…と密かに思っていたので、夢草堂での版画展において誘いを受け、喜んで見せていただくことにした。



門前に掲げられた大きな版画。

しかし、版画と蓮の花がなかなか結びつかない。いったいどんな作品展なのだろう？国際的にはかなり有名な方らしいが、

「版画Ⅱ彫刻刀Ⅱ木版」と連想してしまふ私には、その技法がエッチングと聞きますます想像がつかなくなってしまう。

六月十一日から十九日まで夢草堂で行われた、タイダさん（ボスニア・ヘルツェゴビナ出身）の版画作品展。少し緊張しながら夢草堂へ足を運んだ。

そこでもまず驚いた。正面に襖一枚はあるだろうかと思われる大きな蓮のつぼみの版画が、左右一枚ずつ。これ以上は細く小さく表せないような繊細な線と点。モノトーンの何とも言えない世界があった。これが版画なの？と目が点になってしまった。そして堂内を見回せば、様々な表情をもった大小の蓮のつぼみ、つぼみ、つぼみ。

お寺の本堂に絵を飾る、というと奇異な感じがしないでもないが、この蓮のつぼみは妙なしつくり感というか、不思議な一体感を感じることが出来た。

後で伺ったことだが、夢草堂を訪れたタイダさんが、たいそうこの場所を気に入る、この作品展が実現したとのこと。そして夢草堂のために選んだモチー

フが蓮であったと聞き、素人ながらうなずける気がした。



来客の前で自作を解説するタイダさん。

ただ、蓮といえばピンクの花に私は心惹かれる。芸術家は違うのか？「どうしてつぼみだけなんですか？」ご本人は不在であったが、受付をされていた方が（市内後山在住の女子美術大学名誉教授小林基輝さんで、タイダさんの先生だったとのこと）、私の感想ですが、と前置きをされた上で「つぼみの方が可能性と希望があるからかもしれないですね」と答えてくれた。そうか、私はまだまだ「見た目の美しさ」にとらわれているから上達しないのだと納得。

不思議な異空間を味わうことが出来た作品展でした。

（編集委員 レイアウト担当

森山 芳美）

## 編集後記



「ややや」植え替えし、程良く伸びてきたペチュニアの葉が葉脈だけになっている。

おのれ、につくきでんでん虫め今年も出てきたか。

ああ、テレビで見た小笠原諸島に棲息しているカタツムリは、コマのような平らかなカラをしょっていたり、体長だって九ミリしかないのがいたり、可愛らしいのがいたっけな。

我が家の庭には植えた覚えのないキレイな花が咲いたり、柳や柿の木が生えてきたりして、ビックリ仰天させられた事がある。

小笠原諸島では、一日の観光客を制限したり、衣類や靴に付いた種や花粉を落としてから上陸させたりして、島固有の生物の保護に務めているのだそう。徹底した自然保護を続けてきたからこそその世界遺産登録認可となったのだろう。自然界の不思議さと偉大さには脱帽である。

（小林 登美子）

鈴懸・桐の花

# 桐鈴会夏祭り

とき 7月29日(金)

じかん 18:00  
~20:30

ぼしょ ケアハウス鈴懸駐車場  
(雨天中止)

出し物 民謡踊り大和よいとこ  
など



## 〈屋台店〉

たこやき、やきそば、うどん、  
おにぎり、手作りウインナー、  
すいか、かき氷、枝豆、  
ヨーヨー&スーパーボール、  
ビール、酒、ジュース  
ダーツゲーム

\*屋台は  
チケット制です。  
100円  
50円

ソフトドリンク  
**無料券**  
(1枚につき1杯)